

市長記者会見記録

日時：2019年4月2日（火）14時00分～14時34分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《A. L. C. 貝塚学院関連について》

【司会】 ただいまより市長会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様よりしくお願いいたします。

【幹事社】 今月の幹事社です。よろしくお願いします。

先週、川崎区のいわゆる幼稚園というんでしょうか、幼稚園に類する教育施設の経営危機で、結果的に支援企業が現れたということですがけれども、どうも学院側のほうは、10月からの幼保の無償化の影響を受けて、お子さんが集まらなくて経営が厳しくなったというお話をされていたようなんですけれども、一連の騒動について、行政の長としてどのように受けとめられているのかという点と、今後、こういった幼保無償化の影響で、同じような事態が起き得ないとも限らないと思うんですけれども、どのように行政として支援というか、対応をとられていくのかというのが、もしお考えがありましたら教えていただければと思います。

【市長】 まず、今回の対象施設が、本当に年度末ぎりぎりの3月26日になってから、来年度から事業継続できないという発表をしたことに対して、在園予定だった子どもたち、保護者も含めて、大変大きな混乱を来したということに対して、非常に憤りを感じる部分があります。

事業継続が、支援企業が現れたとはいえ、今回のことをしっかり深く受けとめていただいて、どうしてこういうことに陥ったのか原因がちょっとまだわかりませんので何とも言えませんが、今後しっかりした対応をとっていただきたいと思っております。

【幹事社】 一方で、一定のお子さんの受け皿にはなっていたと思うんですけれども、理由が定かではありませんけれども、幼保の無償化の影響もあるということをおっしゃっていることについてはどうですか。

【市長】 若干（入園者）減ったとは聞いているんですけれども、しっかりと新しい入園児さんたちも一定程度確保していたわけで、今回の原因が、保育の無償化が直接

的なのかどうかは、詳細がわからない中で断定的なことは言えませんが、果たしてそうなのかなとは思いますが。これまでも、あえて幼稚園という形の経営形態をとらず、ある意味独自の路線でやってこられた施設でありますから、それと今回のもの（幼保無償化）がどれほど直接的な影響があるのかは、ちょっと現時点ではわかりかねます。必ずしも、保育の無償化が直結したのかということについては、やや、そうなのかなという疑問は持っていますが。ちょっと、詳細なことについてはわかりませんので。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

【幹事社】 同じく、幹事社です。

同じ幼稚園の件ですけれども、今回、大分混乱があって、保護者の皆様、川崎市のほうにも相談が寄せられたと思うんですが、実際にはどんなお声が寄せられて、市としては、今後どういった対応やケアをお考えかを教えていただければと思います。

【市長】 本当に、川崎市内で245人の影響を受けるということでしたので、区役所だとか、担当の方、あるいは、いろんな議員さんにも話がいたりとかで、いろんな人を巻き込んだことになりました。私どもとしては、とにかく万が一に備えて、幼稚園協会などとも連携をとりながら、なるべく受け入れる体制のご協力をお願いしたり、(児童の) 預かり事業もやっているの、わくわくプラザでも対応できるよう早急に対応を整えたり、あるいは、わくわくプラザ(の利用可能時間)を超えた時間の事業についてもご案内したりなど、なるべくきめ細やかに対応したつもりではあります。今後、事業継続するという発表から、最終的にどれぐらいの方が残られて、どのぐらいの方が転園されるのかということも、現在、リアルタイムで進行している状況なので、正確な数は掴んでおりませんが、連携して万全を期したいとは思っております。

【幹事社】 あと2つ、質問があるんですけれども、ちょっと大きな話になってしまふのかなと思うんですが、このことにより、認可外に通わせている保護者の方々というのも若干不安を抱いていらっしゃるのかなと思うのですが、こういったケースが起きてしまったので、今後市としては、認可外の幼稚園とか保育園とのやりとりとか対策というのは考えていらっしゃいますか。

【市長】 認可外の、例えば保育についても、しっかり私どもと関係を持ちながら情報交換しておりますので、今回の幼稚園に類すると言われるような施設というのは、あまり例がないものです。ですから、正直言って、私どもの所管がどこかと言われると、ちょっと困ってしまうぐらいなところなので、川崎市の、いわゆる認定だとか認可外とは、ちょっと事情が違うと思っております。

私どもの担当課では、経営状況を含めて、幼稚園、保育園とはしっかり連絡をとつ

ていますので、こういったことは起こらないと思っておりますので、そのあたりは安心していただきたいと思っております。

【幹事社】 改めてなんですけれども、今回、大変時期が悪かったというのはもちろんあると思うんですけれども、お母さんたちの中には、やっぱり次を探されるのにすごく苦勞した方もいらっしゃると思うんですが、その上で、今後の川崎市の保育だったり、子供たちに対する支援というのを、改めて市長のお考えをお聞かせ願えればと思います。

【市長】 今回の（件）は、例外的とはいえ実際に起こったわけでありますので、こういったことが起こった時に、迅速にいろんな部局が連携して、あるいは、幼稚園協会でありますとか、そういったところとうまく連携がとれる体制というのは、今後も引き続きとっていききたいと思っております。

【幹事社】 以上です。ありがとうございます。

【幹事社】 幹事社から以上なので、各社さん、お願いします。

【記者】 今の件でお伺いします。

今回のALC貝塚学院なんですけれども、先ほど市長としては、幼稚園に類するところ、私の捉え方だと私塾に近いものだと思っております。こういうことが起きた場合に、行政はどこまでできるのかというのは捉えていらっしゃいますか。先ほど、幼稚園協会に協力要請ということはございましたが、どこまでのことを市ができるものと思っておりますでしょうか。

【市長】 どういう施設であっても、本市に居住しておられる子どもたちに対して、それぞれのニーズに応じて適切に支援していくというのは、これは当然の私どもの責務でありますので、できる限りのご支援をさせていただこうということで協力を呼びかけたり、あるいは、私としてできることはやっております。

先ほど申し上げたような、学童のほうでもそうありますし、幼稚園、あるいは保育のことにしても、本当に（年度末）ぎりぎりでしたので、4月1日からの保育園のご案内というのはできませんでしたが、5月からの保育の空き状況というのは、速やかに状況を公開したり、情報をご案内するという形で、保育が必要な方たちには保育園のほう、幼稚園のほうでは幼稚園という形で、バックアップできるような体制は、私たちがすべきものだと思っております。

【記者】 わかりました。同じような類いのといいますか、類の施設というのは、市にほかにどのくらいあるとか、そういうデータなり情報はお持ちでいらっしゃいますか。

【市長】 この、ちょっと。

【記者】 比べようがない。

【市長】 そうなんです。今おっしゃっていただいたように、私塾に似ているんじゃないのということから言うと、私どもも承知はしているということではありますが、なかなか全体像を把握するのは難しいのではないかと。子どもを預けるということであれば、例えばベビーシッター的などところとか、あらゆるサービスが世の中に存在しているので、それをどこまで把握できるかというのは、課題の一つではあるかとは思いますが。

【記者】 この件では最後なんですけど、貝塚学院と情報交換なりというのは、速やかにスムーズに適宜できていらっしゃるんでしょうか。市役所と貝塚学院の情報交換。

【市長】 それは、担当にもう一度確認はいたしますけれども、当初は経営側の方と、情報収集すらなかなかままならないというのを聞いていますので、そういう意味では、本当に困った、これからどうしたらいいのという保護者の方たちに、私たちが提供できるメニューというのは、こういうことなんですというのをご案内し、万が一に備えるしかなかったというのはあると思います。

【記者】 当初は、当事者からの情報が少ない状況が、ある期間続いたということになる。

【市長】 そうだと思います。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 立て続けに貝塚学院の件なんですけれども、こちらとしても、幼稚園がそもそも県の認可で、今回はまず幼稚園ではないということは、重々承知はしているんですけれども、川崎市さんは、貝塚学院に通われている保護者に対して、あそこが幼稚園に類する施設だと認定をして補助金を出しているかと思うので、人数の把握がされていなかったりとか、バックアップ体制について検討していなかったと、こういう事態を多分想定していなかったと思うんですけれども、今回、春から学童も含めて何人が通うかというのは、代理人の弁護士の先生からの情報がなければ市も把握できていなかったと思うんですね。その点は、今後、保護者の不安を解消する意味でも、市は対応を検討したりとか、把握する必要があるのではないかと思うんですけれども、どうお考えですか。

【市長】 先ほどのご質問に似ているかと思うんですが、世の中には多様なサービスがあって、塾に通っている子どもが何人、どこにいるのみたいな話というのは、どこまで行政が収集できるか、どこまでを区切りとするかというのはとても難しい話だと

思います。ですから、そのあたりは、今後検証はしてみたいと思っています。

【記者】 その件で追加なんですけれども、あそこに通わせている方は、いろんなニーズで通わせているのは重々承知はしておりますが、ただ、保育園に落ちてしまって、幼稚園だと延長保育が短いので、あそこに通わさざるを得なかったという保護者の方もいらっしゃるので、そういうのも踏まえて状況の把握ですとか、そういう施設がどれぐらいあるのかという把握もしていただきたいと思うんですけれども。

【市長】 そうですね。今回のことにかかわらず、保護者としてどういったニーズがあるのかというのは非常に多岐にわたっているもので、そういったところには常にアンテナを張って、需要に対するサービスの提供はどのような形が適切なのかということも含めて、しっかりと子育て支援策という大きな枠の中で考えていかなければいけない課題だとは思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 貝塚学院さんの件なんですけれども、市のほうでは、補助金を出していらっしゃるって、いろんな要件のもとに年額2万2,000円という。逆に、出す施設と出さない施設、私塾のような扱いではありますけれども、類似施設と認定することで、ある意味、線引きはしているのかと。そういう意味でも、補助の対象はあくまで保護者ですけれども、通っている園は、ここだったら補助金を出すよと線引きしている以上は、やはり一定の状況把握だとか、年度ごとなのか、ある意味の指導監督というものができたのではないのかと思ったりもするんですが、これまでの対応、補助金対象の園として認めているこの事業については、今どういうふうに捉えていらっしゃいますか。

【市長】 実は、今回の補助についても、正直、どうしてここが補助対象になっているのかという経緯についても、改めて調べてみてほしいということは指示をしました。そのあたりの経緯も、現時点で私自身、不明な部分があって、整理は必要かと思っています。

【記者】 わかりました。それで、先ほどの、他に行き先が探せない保護者に対するバックアップという話がありました。一方で、こういうメニューもありますよという、ほかの施設に誘導していくような措置というのは、ある意味、民業圧迫にもなるのかと。要するに、通わせ続けるのか、ほかのところに転園先が、行き先があるんだったら、そっちもオプションとして考えたいという保護者にとっては、逆に行き先を提示することが、今の貝塚学院から外に誘導するような流れになったりはしないかなということも思ったりもしたんですけれども。

【市長】 それは、26日の閉園のことを受けて、いわゆる緊急的に、4月1日から問題になるので、ご案内をさせていただくということはありますけれども、何かこっちからこっちへどうぞということでは決してありませんので、そのようなことがないよというは当然のことだと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《新元号「令和」関連について》

【記者】 昨日も個別の取材でお伺いしましたがけれども、政府が新しい元号を発表しました。昼から夜にかけていろいろな報道があつて、元号への解説は市長も見聞きされたかと思います。改めてなんですけれども、新しい元号に対する感想や思いというのをお聞かせいただけないでしょうか。

【市長】 人それぞれいろんな受けとめ方があるようなんですけれども、このように決まったということに、改めて非常に前向きに受けとめたいと私個人は思っております。とてもいい元号になったのではないかと思います。昨日も申し上げましたけれども、「和」という言葉が入って、令和の時代も、平和で争いのない時代になってほしいという願いとともに、そういう時代を作っていかなければならないということ、みんなで作っていくということが求められる時代なんじゃないかと思っています。

【記者】 話、ちょっと戻ります。せっかくの会見で記録性も高いので、市長は、どこの場所でその発表を見て、見た瞬間にはどのような印象なり感想を持たれましたか。

【市長】 ちょうど3人の副市長と打ち合わせ中だったものですから、そろそろだねということでテレビをつけて、ちょうどそのタイミングで見たという感じです。

受け止めとしては、最初、令和って、「令」という言葉自体も、ええっという、ちょっと驚きを持って見ましたけれども、全く想像もつかなかったの。ただ、令和という響きというか、あれは非常にいい響きだなと思いました。ものすごく個人的な感覚の問題ですけど。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《ホテルシップ誘致について》

【記者】 ちょっと話は変わるんですけど、先週金曜日、東扇島でホテルシップの覚書を締結したという発表がありました。しかも、アジア最大のクルーズ会社と豪華な客船が接岸するという方向と聞いています。ホテルシップについて、まず第一歩を踏み出したわけなんですけれども、市長の思いというか、こんなことできるといいなも

含めて教えていただければと思うんですが。

【市長】 今回のホテルシップという試みが、将来的なクルーズというものに発展していければなという思いはあります。今回、東京オリパラへの対応ということではありますけれども、いわゆるホテルシップという形じゃなくても、クルーズという形で川崎港に来られて、そして川崎市内の観光ですとかにつなげていく。これからソフト、あるいは港から都市部へのアクセスみたいな、交通の課題もあると思いますし、取り組まなければならないものはたくさんあると思いますから、そういった準備をしっかりとっていくことに努力していきたいと思っています。

【記者】 今の市長のお話の中で、今後、将来的なクルーズに発展していけばいいなと、東扇島が今後クルーズの寄港地になる可能性というのはあるのでしょうか。

【市長】 それは、本当にこれからある意味挑戦で、やはり川崎港も非常にありがたいことに、取り扱う荷物も非常に増えているので、本業のところを圧迫しない形でと言ったら変ですけども、そういうことがうまく共存共栄できるような形を目指していきたいと思っています。ただ、川崎港がこういった今までにない利用のされ方というのは、市民の皆さんにとっても港がぐっと情動的にも近くなるという意味では、非常に有意義な取組だと思っています。

【記者】 東扇島の岸壁の深さ、海の深さというのは本牧と同じ、大黒と同じぐらいということで、非常に、超大型客船も泊まれるということで、しかも都心部に近くて羽田連絡道路もできると、かなり勝てる要素が出てくるかと思うんですけども、そこら辺も視野に入れておられるということでしょうか。

【市長】 これは、本当に今後次第ということなので、今回のホテルシップの取組が、ちゃんとできるかという大きなハードルをクリアしていくということが、今後のクルーズを引き続き呼べるかどうかの裏返しにもなりますので、そういう意味では、今回のホテルシップの成功に向けて、いろんな主体の皆さんと協力していきたいと思っています。

《災害救助法救助実施市の指定について》

【記者】 ありがとうございます。もう一点あります。昨日、災害救助法改正の災害救助実施市指定第1陣で国の指定を受けました。これは、市長も昨年来、ずっと前向きに取り組まれてきたことが結実したことだと思います。災害救助実施市の指定を受けて、改めて市長の決意といたしましょうか、思いを教えてください。

【市長】 長年にわたって求めていたことが結実して大変よかったと思いますし、ま

た、救助実施市に指定されたことによって責任も大きく伴いますので、その責任をしっかりと果たせるように、今後も地域防災力を確固たるものにしていきたいと、今回の指定を受けて決意を新たにしているところです。

【記者】 ありがとうございます。

《新年度最初の定例局長会議について①》

【記者】 たびたびで済みません。新年度1回目の会見なので、今日、午前中も局長会議があったかと思います。昨日は新教育長も就任されたかと思います。今年度、新年度1発目の局長会議で、どのようなことを幹部職員に指示をして、どんなことを求めていくかということをお聞かせ願えれば。

【市長】 今日の定例局長会議の時は、それぞれ資料を持ち合って共有するわけがありますけれども、これまで以上に、資料にないことも含めて、自由闊達な議論をこの場でやろうと話しました。より部局間の連携というのが重要になってきますので、そのことをしっかりやっていきたいと思いますという話をしました。それから、新年度、(職員の) 出入りがあるので、不祥事等は気をつけようということ、特に今、選挙期間中でもありますので、そこはしっかりとという話はいたしました。

それから、働き方改革というか、残業規制が非常に厳しくなってきますので、各部長の、いわゆるマネジメント力が非常に問われることになるので、今の実態がどうなのかというのを細かく毎月やっていますので、新任局長の皆さんには、改めて自分の今の状況を確認して、相当なマネジメント力と工夫がないと乗り切れないということで、前向きに頑張っていこうという話はいたしました。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《合葬型墓所について》

【記者】 合葬墓が完成したと思うんですけども、2万体制埋葬できるということで、結構大規模な施設ではないかと思うんですが、前回もお伺いしたんですが、改めて、市民にとってどういう合葬墓であつたらいいなというお気持ちをお聞かせ願えますか。

【市長】 これまでもお話ししてきましたけれども、市民の皆さんのお墓に対するニーズが急速に変化してきていることもあって、そういう意味では、合葬墓というのは求められてきたものだと思います。ぜひ、こういう選択肢もあるんだということを知っていただいて、私たちも広報はしっかりやっていきたいと思いますが、こういう選択肢もあるんだよということをぜひ周知していきたいと思ひますし、またご利用いた

だけばと思っています。

【幹事社】 よろしいでしょうか。

《新年度最初の定例局長会議について②》

【記者】 先ほどの質問、部局長にどのような指示を出されたかという最初の項目で、自由闊達な議論をしようというふうに指示したとありました。これは、何かきっかけなり状況の変化なり、もしくは市長の咀嚼力が高まって、もっと違うトライをしようということでこういうふうに言ったのか。何かきっかけがおありだったのでしょうか。

【市長】 最近、統計情報なんかも、いろんな部局で見ると、いろんな捉え方ができる、そのことを複眼的というか、いろんな人たちが1つの数字を見た時にいろんな意見が出てきたりすることをすごく感じているところです。ですから、例えば、経済センサス1つとっても、それぞれの区でどう見るのか。細かく分析してみると、こういう傾向があるよねとか、それが隣の区でどうなっているんだろうかという話ですとか。経済センサスなんだけれども、いわゆる住宅政策にも関わったりとか、いろんな捉え方ができるので。この前も少し話をしたんですが、毎週やっていますが、なかなかあれだけのメンバーが一堂に会することはないので、決まったことをしゃべるよりも、むしろもっともっと自由に議論できると、よりそれぞれの局に持ち帰って、こんなことが今日あったよとか、私たちの中でも少しこういうテーマで考えようという、そんな会議体になれば、もっともっと部局間連携だとか、政策統合みたいなものは進むのではないかと、そういう期待をしてそんな発言に至っているということです。

《新規採用職員発令式について》

【記者】 もう一点、お願いします。昨日、私も臨場して取材をさせていただきましたが、発令式で、幸区の産業振興会館においては207人の方に辞令を交付しました。市長の挨拶、これまでも発言された内容も含めて、型破りと型なしの話も含めてされました。今、会見なので、ほかに見ていらっしゃる方もいるので、改めて、どういう思いを込めて、どのようなことを新採用職員に述べられたのか、重ねてではありますけれども、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 かいつまんで言うと、あそこに来て辞令交付されて、これだけ多くの職種があるのかということにみんなびっくりしていると思うんです。それだけ幅広いものに、私たちは市民の一番近いところで仕事をしているということを誇りに思って仕事をしていこうということと、市民から見れば、新人だろうがベテランだろうが、そう

いう見方をされないで、市役所の一職員として見られるわけだから、そのために早く仕事を覚える。そして、自分たちの今まで会ったこともないような人たちとこれからかかわって仕事をしていくという意味では、一人一人が研さんを積む。しっかりと仕事を学ぶということもそうだし、人間的魅力を付けていくという意味では、大いに遊ぶことも必要だろうし、そういったことをしっかりとやっていきたいと思いますという話をしました。

型破り、型なしという話も例えにして言いましたけれども、最初は新人なりに聞く耳を持って、しっかりと先輩たちの仕事を、まず型をしっかりとやろうと。その中で、気が付いたことは自由闊達に言っていこう。自由な風土の中で仕事をしていくということが大事なんじゃないかという話を新人の皆さんに言いました。

【記者】 どうもありがとうございます。

【幹事社】 すみません、市長、1点だけ。先ほどのホテルシップの誘致に当たっては、市長が何かトップセールス的なもので動いたとかというのは。

【市長】 いや、これは、むしろ港湾局としてのチャレンジだと思います。私よりも、むしろ（港湾）局のほうが意欲的に、エネルギーにこれまで動いてきたので、その成果がこうやって出てきていると思いますので、その取組については私も高く評価しています。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。よろしいですかね。ありがとうございます。

【司会】 それでは、以上をもちまして市長会見を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355